

令和7年度 事務事業マネジメントシート

1 事業概要			中事業番号		405									所属コード		213000	
政策体系			SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）				
大綱（取組）	Ⅳ「誰もが地域で輝く未来」		1.3 4.5 10.2	○	6-3		○	○				(1)「郡山市あさかの学園大学進学事業」課程：教養2年・専門2年、学科：3学科（健康・福祉、農土・生活、芸術・文化）、授業回数：年間36回（2）「郡山市豊かな長寿社会 いきいきふれあいの集い」内容：三世代間による提言・活動事例発表・記念講演	(1) 高齢者を対象とした学習の場を提供することにより、高齢者が現代社会に即応した感覚や暮らし方を学び、地域社会に貢献することで、豊かな長寿社会を築くことを目的とする。（2）豊かな長寿社会を進めるため各年代より提言等をいただき全市民で考える契機を設ける。				
施策	4 誰もが健康で生きいきと暮らせるまち		10.2														

事業開始時周辺環境（背景）				現状周辺環境				今後周辺環境（予測）				住民意向分析			
高齢化社会の進行に伴い、文化的かつ教養志向の高い健康で意欲的な高齢者の増加が見込まれている。これら高齢者の生活の変化や現代社会に即応した感覚や暮らし方を確保するため、高齢者を対象とした系統的・継続的な学習ができる高齢者大学として、1988（S63）年に開校した。				本市の平均寿命は、2020（R2）年には男性81.10年、女性87.07年となり、また、総人口が減少する中で高齢者（65歳以上）数は増加し2023（R5）年の高齢化率は28.0%となっている。このような中、元気で意欲のある高齢者がその経験や知見を社会で発揮することが期待されており、国は70歳まで就労機会が確保できるよう法整備し、働く意欲がある高齢者がその能力を十分発揮できるよう、高齢年齢者が活躍できる環境整備が図られている。				日本人の平均寿命は、2023（R5）年には男性81.09年、女性87.14年と前年比男性0.04年、女性0.05年の伸びとなっている。平均寿命の伸び方が鈍化していることについては、新型コロナウイルス感染症の流行の影響等が考えられているが、今後は再び進展していくことも予想される。また、総人口規模が縮小する中、現役世代人口は急激に減少し、ますます高齢化は進んでいく。一入暮らしの者の65歳以上人口に占める割合も、2015（H27）年には34.5%であったものが2040（R22）年には39.3%に増加すると見込まれている。高齢者が生涯現役で活躍することが求められる社会に変わっていくなか、地域における人とのつながりがより一層重要になってくる。				学生の応募において、令和4年度入学生については、定員180名に対し158名、充足率が87.7%、令和5年度入学生については、定員180名に対し173名、充足率が96.1%、令和6年度入学生については、定員180名に対し142名、充足率が78.9%と新型コロナウイルスの影響も減少している。また郡山市以外の広域圏からの入学者も令和4年度100名、令和5年度98名、令和6年度96名と全体の2割程度を占め、周辺地域からの入学も安定したニーズがある。			

2 事業進捗等（指標等推移）				まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名		指標名		2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		中間指標	
		単位		計画		実績		計画		実績		計画		計画		2021年度	
対象指標		60歳以上人口（4／1現在：住民基本台帳）		人		108,132		108,613		108,880							
活動指標①		学生数（5月1日現在）		人		660		529		526		660		660			
活動指標②		開催回数（いきいきふれあいの集い）		回		1		1		1		1		1			
活動指標③		講座開催回数		回		432		432		420		420		420			
成果指標①		卒業及び修了者率		人		100.0%		98.3%		98.1%		100.0%		100.0%		100.0%	
成果指標②		参加者数（いきいきふれあいの集い）		人		1,000		700		700		1,000		1,000		1,000	
成果指標③																	
単位コスト（総コストから算出）		卒業及び修了者数 1名あたりのコスト		千円		95		90		90		85		85			
単位コスト（所要一般財源から算出）		卒業及び修了者数 1名あたりのコスト		千円		37		72		71		65		65			
事業費				千円		42,735		45,083		44,782		54,614		54,614		54,614	
人件費				千円		2,176		1,706		1,695		1,706		1,706		1,706	
歳出計（総事業費）				千円		44,911		46,789		46,477		56,320		56,320		56,320	
国・県支出金				千円						0		0		0		0	
市債				千円						0		0		0		0	
受益者負担金（使用料、負担金等）				千円		9,665		9,025		9,015		10,295		10,295		10,295	
その他				千円		17,788		124		628		3,034		3,034		3,034	
一般財源等				千円		17,458		37,640		36,834		42,991		42,991		42,991	
歳入計				千円		44,911		46,789		46,477		56,320		56,320		56,320	
		実計区分		評価結果		継続		継続		継続		継続					

活動指標分析結果				成果指標分析結果				総事業費（事業費・人件費）分析結果			
あさかの学園大学は、平成31年度からこおりやま広域圏事業として募集対象を広域圏内に拡大し、入学者数が大幅に増加した。その後、新型コロナウイルス感染症の流行の影響から学生数が減少したものの令和5年度以降は回復基調にある。 いきいきふれあいの集いは、福島県出身の落語家 桂 幸丸 氏による「桂 幸丸 ふるさとを大いに語る」と題した講演会のほか、市内高校生などによる提言発表、活動事例発表を行った。				あさかの学園大学の年度当初学生数526人に対し、規定の出席日数（50%以上）を満たした卒業及び修了者は98.1%の516人おり、授業内容や学生生活に対する満足度は高いと評価できる。 また、いきいきふれあいの集いは、新型コロナウイルスの影響もなく、自治会連合会との共催で開催し、広報等による周知も積極的に行い、あさかの学園大学学生の他に世代を問わず広く一般市民の参加を呼びかけた結果、学生数を上回る参加者を確保している。				【事業費】 学生の定員は前年同数と事業規模に変更がないことから、事業費は、ほぼ横ばいの状況となっている。			
								【人件費】 前年と同規模の事業内容であることから、人件費については、ほぼ横ばいの状況となっている。			

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価			
1 規模・方法の妥当性		4	
2 公平性		3	
3 効率性		4	
4 活動指標（活動達成度）		4	
5 成果指標（目的達成度）		4	

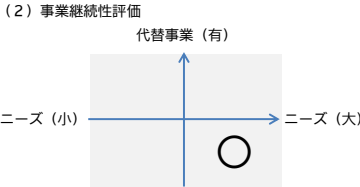
1 規模・方法の妥当性

4 公平性

3 効率性

4 活動指標（活動達成度）

5 成果指標（目的達成度）



継続	一次評価コメント
あさかの学園大学は、こおりやま広域圏事業として募集対象を広域圏内住民に拡大し、学生数526名のうち、96名（18.3%）が郡山市外の広域圏住民であった。構成自治体それぞれで公民館における高齢者学級等は開催されているが、年間を通して開催される高齢者の学びや仲間づくりの場に対するニーズがあったものと考えられる。 今後も圏域全体の高齢化が進む中、高齢者が年齢にとらわれることなく、社会の重要な一員として、生きがいを持って生涯現役で活躍するために、「学生自らが現状の課題に対応できる能力」を身に付けられるカリキュラムの充実を図っていく必要がある。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
	○				○

気候変動対応	D X （デジタル市役所）	部局間協奏
	○	

4 二次評価

(1) 事業手法評価			
1 規模・方法の妥当性		3	
2 公平性		3	
3 効率性		3	
4 活動指標（活動達成度）		4	
5 成果指標（目的達成度）		4	

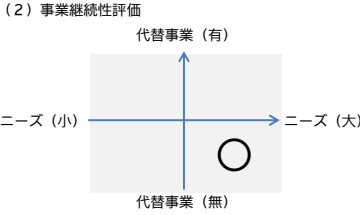
1 規模・方法の妥当性

4 公平性

3 効率性

4 活動指標（活動達成度）

5 成果指標（目的達成度）



継続	二次評価コメント
あさかの学園大学の学生数は定員に達していないものの、前年度と同等の実績となっており、規定の出席日数を満たした卒業及び修了者率も、高い水準になっている。なお、令和7年度から教養課程の年間授業料を増額し、受益者負担の見直しを図ったところである。また、いきいきふれあいの集いも予定通り開催し、前年度と同程度の参加者となった。 本事業は、社会とつながりを持って学び続けることができる豊かな長寿社会づくりに寄与する事業となっており、またこおりやま広域圏内住民からの在学者も全体の2割を占めるなど、広域圏事業としての役割も担っていることから、今後においても継続して事業を実施する。	

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画			